

## 平成29年度第1回阪南市子ども読書活動推進会議 会議録

開催日時	平成29年6月20日（火） 午後2時
閉会日時	平成29年6月20日（火） 午後3時
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	副委員長 石原 慎 （生涯学習部学校教育課）
	委員 橋本 一郎 （市民公募）
	委員 浅井 妙子 （子どもNPOはらっぱ）
	委員 猪俣 健一 （社会福祉協議会）
	委員 谷本 美由貴（阪南市みんなの図書館を考える会）
	委員 福井 貴子 （泉鳥取高等学校）
	委員 下林 奈央 （飯の峯中学校）
	委員 北口 登喜 （舞小学校）
	委員 南 智珠子（尾崎保育所）
	委員 宍道 恵子 （子育て総合支援センター）
	委員 油谷 優公 （福祉部こども家庭課）
	委員 後藤 陽子 （健康部健康増進課）
	委員 加藤 靖子 （生涯学習部図書館）
欠席委員	委員長 森本 典子 （阪南市子ども文庫連絡会）
	委員 西野 豊子 （市民公募）
	委員 大塚 尚子 （はんなん子育てネットワーク）
	委員 奥野 ユカリ （はあとり幼稚園）
	委員 井上 真理 （生涯学習部生涯学習推進室）
事務局出席者	図書館主幹 森下 喜代子
	図書館総括主事 中山 直子

### 案件 1

#### 図書館長挨拶

委員紹介  
 新委員紹介  
 委員自己紹介

井谷委員から石原委員へ交代し、副会長が不在となったため、後任である石原委員を副会長に選出した。

## 案件 2

### 昨年度の子ども読書活動推進の取り組みについて

#### A 委員

友遊サロン子ども文庫：一昨年11月に、緑ヶ丘地区で自治会と一緒に子ども文庫活動を始めた。餅つきイベントと重なったときなど、大勢来てくれにぎわったが、今年に入って、来てくれる子どもがほとんどいない。祖父母世代と子どもたちの交流の場になればと思っている。  
自治会と一緒にやっているため、地区の子ども限定にならざるを得ない。地区外まで枠を広げたい。

#### B 委員

私立こども園での絵本返却：2年前に開園したばかりの園なので、子どもの数が少なくまた、図書にはバーコードを貼っており、園児はICカードを所持しているという環境の中で実施できた事業。週に1回の本の貸出の際、園児がスキャンする。小さな図書館員体験。主に年長児が活躍している。園児数が増えてきているので今年度の実施については未定。

#### C 委員

子どもがその園に通っている。園で各自に絵本を定期購入して持って帰ってくるのだが、その一場面が教室に再現されていた。保護者も協力して場を盛りあげていた。

#### D 委員

小学校での本の帯コンクール参加：まず図書委員が委員会の中で、作ってみせる。それを見て1年生から6年生も挑戦。学校図書館専任司書も帯用の用紙を準備する等サポートしている。色を塗ったり、文章を考えたり、図書の時間をオーバーして工夫して作っている。初めは全校規模ではなかったが、3年ほど前から全校をあげて参加するようになった。

#### E 委員

ビブリオバトル：教師と生徒併せて5人か7人で試験的に開催。1位になったのは生徒で、関西大会にも進学校に交じって参加した。入賞はできなかったが、よい評価を得て、Webサイトのトップページに採用された。今年も実施予定。府立図書館主催のものに参加しようと思っている。

#### F 委員

少年院（和泉学園）との連携について：第一次計画から文章にはあったが、ようやく着手。29年3月に大阪府立図書館の職員とともに見学。本については図書費が60万円と家族からの差し入れがあり、ライトノベルを読む子も多いとのこと。生徒数は短期・長期併せて定員は200人ぐらいだが、現在は定員割れしているとのこと。今回、子ども読書活動推進の計画書を渡し、団体貸出の案内もできた。

## 案件 3

### 今年度の子ども読書活動推進の取り組みについて

#### F 委員

図書館では、「えほんのひろば講座」を予定。300冊ほどの本（絵本だけでなく料理本、写真集など）を段ボール製の面展台上に並べ、子どもも大人も読みたい本に出会う場をつくる。1人が集団に向かって読むのではなく、子どもたちが自分で読みたい本を選んで読む、または読んでもらうもの。講師は加藤啓子さん。学校図書館専任司書にも参加してもらう。幼稚園・保育所の先生や一般市民にも参加してほしい。「えほんのひろば」を一緒に作っていく仲間を増やしたい。

1回の開催には4、5人の大人が必要。家庭で読み聞かせをしてもらった経験のない子どもたちが、膝の上で読んでもらうことでいい顔を見せてくれる、大人が読んで笑っている姿を見て子どもが興味を示す、本って楽しいんだな、と伝わる等の事例を聞いている。今までの読み聞かせでは使わないような本も「えほんのひろば」では並べる。300冊の中身はほとんど変えずに、幼稚園・保育所から高校まで対応できる。こんな本、子どもには無理という判断はダメ。重いもの、軽いもの、笑えるもの…色々な本を子どもたちの前に置いてあげる。その中から子どもたち自身が選ぶ。それが「えほんのひろば」。今年度は放課後子ども教室（わくわく教室）で実践する予定。今回の講座の受講者に早速活躍していただく。

G委員	受講しないと、実施できないか。
F委員	受講の都合がつかなければ、わくわく教室を見学に来てほしい。
G委員	0歳から2歳対象の絵本の時間を持っているが、日によって何歳が多いか予測がつかず苦慮しているので。色々な本が見られるのはよいと思った。「えほんのひろば」用に本を貸してもらえるのか。
F委員	面展台とともに貸出予定。
H委員	依頼すれば、実施してもらえる形になるのか。
F委員	ボランティアを育成して、対応できるようにしたいと思っている。
D委員	学校図書館専任司書配置について：一校一名をめざしている。
事務局	今年度も、昨年同様取組を記録していただき、報告をお願いする。締切りは来年3月初旬ごろである。
<b>案件4</b>	<b>事務連絡</b>
事務局	家庭読書の日の文言を各種印刷物等に使っていただくなどPRをしてほしい。 次回の会議は12月ごろを予定している。
I委員	市立保育所は3所あり、内容が重なっているところもあるのをまとめている。この計画はいつまでになっているのか。
事務局	平成31年3月まで。
	<b>終了</b>